林業機械化センター親機館

日本森林学会による

日本の林業遺産を知ろう！

林業機械化センター保存の森林鉄道車両群と根利森林鉄道遺構

（一社）日本木質バイオマスエネルギー協会　矢部三雄

JR上越線沼田駅から東へ30kmほどの沼田市利根町根利に林業機械化センターがあります。この施設は林業の機械化推進を目的に1957年に設置された旧沼田営林署機械化室を前身としており、林業現場に導入された初期のチェーンソー、トラクターに加え、森林鉄道の車両が収集され、保存・展示されています。特に車両は、森林鉄道の発展過程を知る上で代表的な5両となっています。

最も古い車両は米国のボールドウィン社製蒸気機関車です。これは、1921年、旧内務省北海道庁国有林での最初の森林鉄道となった温根湯森林鉄道、置戸森林鉄道に導入された4両のうちの1両で、置戸森林鉄道で運用されていました。同型機は、草創期を代表する蒸気機関車として運行実績が良好と

ボールドウィン・エンブレム

評価されました。現在国内には同機のほか、長野県上松町の赤沢森林鉄道記念館、秋田県秋田市の仁別森林博物館にそれぞれ1両が静態保存されています。

ホイットカム社製小型ガソリン機関車

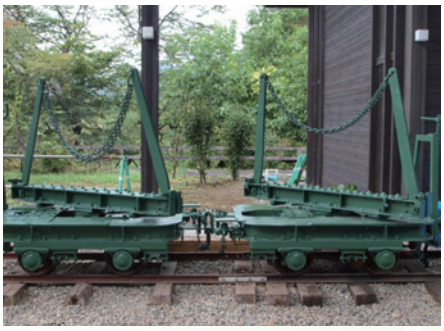
協三工業製ディーゼル機関車

次に古い車両が米国のホイットカム社製小型ガソリン機関車です。簡易な森林軌道において人力・畜力で行っていた運材台車の山元回送を担うために導入されました。同機は1926年に旧宮内省帝室林野局木曽支局の小川、王滝森林鉄道の支線、作業軌道用に導入されたもので、森林鉄道に導入された同型機として唯一現存しているものです。

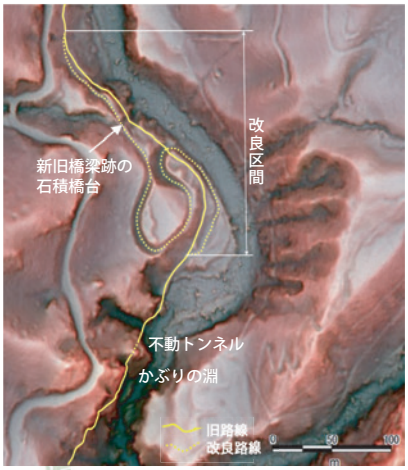
最も新しい車両が協三工業製ディーゼル機関車です。これは1956年に旧農林省北見営林局滝上営林署濁川森林鉄道に導入されました。その後、長野営林局王滝森林鉄道に転属となり運材列車だけでなく学童用のやまびこ号などの旅客列車の牽引にも用いられていました。

動力車のほかに運材台車と客車があります。運材台車は1961年に岩崎レール工業で製造された一体鋳鋼製のフレーム（モノコック）を持ったもので、エアーブレーキ用のホースが装備されており王滝森林鉄道で使用されました。客車は、長野営林局王滝森林鉄道で使用されていたB型客車です。B型は、車体に対して水平方向に回転可能な台車（ボギー台車）を有しており、ロングボディーの曲線走行の安定性を確保しています。

また、林業機械化センターの近くには、1963年まで国有林材の運搬に使われた根利森林鉄道の遺構をみることができます。この路線には、特殊軽量機関車を導入する際に勾配を緩和するため路線付替え工事が行われており、新旧路線の遺構が併存する大変珍しい箇所もあります。車両群とともに森林鉄道の歴史を学ぶことのできる絶好の教材といえます。


運材台車

木曽B型客車



併存する新旧路線

なお、これら車両群は、長い間屋外で保存されていたため、痛みが激しくなっていました。このため2006年に、車両群の修復管理を行う民間ボランティア団体「よみがえれボールドウィン実行委員会」が組織されました。

同会では、保存車両の修復作業に加え、広く情報発信を行う「根利森林鉄道まつり」の開催や遺構の調査結果をまとめた「根利森林鉄道調査報告書」の発行にも取り組んでいます。こうしたボランティア活動は林業遺産を将来に引き継いでいく上で欠かせないものです。関心のある方は参加されてみてはいかがでしょう。

※ 機械化センター展示棟は、現在一般見学休止期間に入っています。
・ 展示棟（親機館）外壁工事のため、一般見学中止：2023年9月12日～12月中旬予定
・ 保存車両冬ごもり期間：2023年11月～来春